世銀・日本社会開発基金拠出プロジェクト成果発表会での
在グアテマラ日本大使　川原英一挨拶
（2016年４月１３日午前１１時から　於、バルセロホテル）

メンデス農牧大臣，　モイール SEGE Plan 長官、
プロジェクト実施に関わったＮＧＯ団体 Utz-Che の代表、
農業科学技術庁（ICTA）サラマ支部及び本部の皆様、
プロジェクトに参加した５２の集落住民の皆様、
メディア関係者、
関係各位

今日、このプロジェクトの成果発表会に皆様と共に参加することが出来、喜ばしく思います。　世銀内に設置されている日本社会開発基金（ＪＳＤＦ）からの拠出による本プロジェクトは、気候変動などからの旱魃被害に最も脆弱な乾燥地域３県、５２集落、８千名の農民を対象として、食糧危機への対応のモデル・プロジェクトとして実施されました。

プロジェクトの対象地域は、ＳＥＧＥプランと協議して、最貧農民が多い集落を選び、各集落の置かれた生活環境・事情を考慮しつつ、多様な取り組みを行ってきています。また、このプロジェクトの成果が、将来も持続可能なものとなるように、プロジェクト実施１年目は、集落農民のプロジェクトへの参加意識を高め、集落毎に指導的人材育成のため研修を数多く実施されたと承知します。
その後は、村落指導者から農民へ、食糧確保、環境問題への対応などの研修を継続的に行っています。この過程で、地元住民と共に取り組んだＮＧＯと農牧省 ICTA の研究員達が、重要な貢献を果たしています。

旱魃の中でも農作物の生産を確保するため、各農家に水タンクや水槽が設置され、主食であるトウモロコシ、フリーホーレス、芋類など多様な作物の有機栽培の指導を行い、肥料生産、家畜飼育、植林、養蜂、ティラピア養殖などが実施されています。地域の事情に応じたアイデアを積極的に取り入れた指導がされました。ＮＧＯ，ＩＣＴＡ関係者のたゆまない指導とモニタリング活動に対し、大きな賞賛と尊敬の気持ちを表明致します。

本プロジェクトの実施結果は、大変に顕著、かつ素晴らしいものとなりました。

作物収穫が期待できる農耕地が大幅に拡大し、穀物生産が倍増以上となりました。
また、新たな食糧確保、収入源を見いだしています。村落住民は飢餓から解放され、子供達の栄養改善、効率の高い燃料使用による環境へのポジティブな効果、健康増進などにつながっています。

今日、皆様とこうした顕著な成果について共有できることは、大変に素晴らしいことに感じています。また、こうした取組みが他の地域にも広まることを大いに期待します。　（了）